

## アスペルギルステレウス糖たん白質

### 1.食品添加物

アスペルギルステレウス糖たん白質 (*Aspergillus terreus* glycoprotein)

### 2.基源・製法・本質

糸状菌(*Aspergillus terreus*)によるブドウ糖、澱粉及び大豆ミールの発酵培養液を除菌し、硫酸アンモニウムにより分画した後、脱塩して得られたものである。主成分は糖タンパク質である。

### 3.主な用途

製造用剤

### 4.安全性試験成績の概要

#### (1) 単回投与試験

急性経口LD<sub>50</sub>はラットで6,000mg/kg超、マウスで7,500mg/kg超である<sup>1),2)</sup>。

#### (2) 反復投与試験

SDラットを用いた強制経口(300、600、1,200、2,400mg/kg)投与による3ヶ月間の反復投与試験において、検体投与に起因する毒性学的影響は認められていない。無毒性量は2,400mg/kg/dayと考えられる<sup>3)</sup>。

#### (3) 変異原性試験

細菌を用いた復帰変異試験、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験の結果は、いずれも陰性と判断される<sup>4),5)</sup>。

#### (4) 眼粘膜刺激性試験

日本白色ウサギを用いて眼の角膜、結膜及び虹彩に対する一次刺激性を3.0%水溶液で調べた試験の結果は、陰性と認められている<sup>6)</sup>。

### (引用文献)

1. 今井 清ほか: MST(ムタステイン)の経口投与によるラットにおける急性毒性試験, 基礎と臨床, 20(12), 131, Sep. 1986
2. 今井 清ほか: MST(ムタステイン)の経口投与によるマウスにおける急性毒性試験, 基礎と臨床, 20(12), 133, Sep. 1986
3. 山口一喜ほか: MST(ムタステイン)のラットにおける経口3ヶ月間投与毒性試験, 基礎と臨床, 20(12), 135, Sep. 1986
4. 田中憲穂ほか: MST(ムタステイン)のチャイニーズハムスター培養細胞による染色体試験, 基礎と臨床, 20(12), 127, Sep. 1986
5. 岩原繁雄ほか: MST(ムタステイン)の細菌による変異原性試験報告, 基礎と臨床, 20(12), 123, Sep. 1986

6. 原康夫ほか: ムタステインの眼粘膜刺激性試験, 基礎と臨床, 23(2), 71, Jan. 1989